職業人として自己学習能力を育てるには

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

1 ドルが 80 円台を記録するようになった現在、日本経済にとっていつ何が起こっても不思議でない状況になった。日本経済だけでなく、栃木県経済 自社 自分の家計と、地域経済、ひいては、今自分の勤務する会社、最後には、自分自身の減給、失業、生活の不安にまで円高は影響する。

今秋から更に不況が進み、96年秋に底をつきその状況が98年まで継続、99年から上向きは始めるのではないのかというのが私の予想だ。毎月開かれる経済企画協会主催の月例経済セミナーで政府高官のお話を聞き、日本経済新聞社主催の栃木県日経懇話会で編集委員クラスのお話を聞くことをこの何年かしているが、どうしても政府の高官やマスコミ関係者は明るい結論を立場上示すことがないことが多い。政府発表やマスコミ論調をうのみにしていると今にも景気は回復しそうだが、とても信じ難い。自分で現状を分析し、予測を立てる以外にない。

(各シンクタンク(金融系の総合研究所)の出す予測も、国外のものはよく当たるが、日本経済については、母体の組織に遠慮してか明るい数値ばかりなので、この先どうしたらよいかを考える場合に、余り参考にならない。リサーチャーの方も本当のことが判らないのではなく、書いてはまずいとの自己規制をしすぎているのがよく判るが、「職業としてのリサーチャー」をこの日本に育てたかったら、思ったこと、かなりの確かさで推論できることは率直に世間に示すべきかと思う。)

これから先ほぼ5年間大不況が到来すると思われるが、その間をどう乗り切るかを考えると、私も含めて各人に不足する知識を早急に補充し、自分自己の実力を身に付ける方法、つまり「自己学習能力」を自らの力で育てる以外にない。今回は、どのようにしたら自己学習能力を身に付けることができるかを考える。

2. 自分の職業に応じて「自己学習能力」を身に付けよう

「公務員」とりわけ県会議員、市町村会議員等地方公共団体の議員の方は各「予算書」を徹底的に勉強する必要がある。事業所が群馬にもあるので私は群馬経済同友会にも入らせてもらっているので4月12日は前橋の群馬ロイヤルホテルで開かれた群馬経済同友会主催の群馬県予算説明会に参加させて頂き、群馬県財政課で群馬県予算を執筆なさっておられる責任者の方からお話を聞いた。ここ数年毎年4月に群馬県の予算書について執筆担当者から説明をお聞きしているがとても勉強になる。7655億の群馬県予算を200万の群馬県民のために(一人平均38万円)どのように配分するかが、群馬県知事をはじめ群馬県議会議員の仕事の大半となる。この4月に選出された市町村長、県や市町村議会議員の方々は、ゴールデン・ウィークまでに選挙の疲れをすべてなくし、自分の担当する地方自治体の本年度の予算書をまずは1円残らず理解することが、投票して下さった有権者に対する社会的責任であると考え。なぜ、この事業や事件についてこの金額の予算がついているのか、徹底的に勉強して頂きたい。それが終わったら、現実にその予算はどのように使われているのかを足が棒になるまで調査をして頂きたい。その調査の過程で、もっとよい予

算の使われ方があったら克明にメモをし続け、決算の審議や、来年度の予算の審議のときまでに詳細な調査を重ねておいて頂きたい。このようにして調査研究を重ねていくと驚くほど大量の税金が、驚くほど乱暴に使われている例が 100 や 200 はすぐに発見できるハズである。議員の調査研究権や議会図書室はそれらの調査をサポートするために存在する。県や市町村立の図書館も非常に有用である。果たして議員の方々が一人平均週に何時間予算書や決算書のために調査や研究をしているのか。貴重な税金の使い途を最終決定する代表者として「自己学習能力」を育てるために、「予算書」の徹底研究を望むものである。

「部下を持つ立場にある人」、部下の数が多ければ多いほど、取り扱う金額が多ければ多いほど、それなりの「自己学習能力」を身に付けておかなければならない。自分が責任者である組織全体が、自分の自己学習能力の高い低いで存亡が決まってしまうからだ。部下が多ければ多いほど、取り扱い金額が多ければ多いほど、与える社会的影響は大きい。社会問題の根本は経済問題だが、部下を持つ人次第でその組織のほとんどすべてが決まる。収入も支出も決まり、デフレ下での企業清算や倒産も発生する。では、「部下を持つ立場にある人」は、どのように自己学習能力を身に付けたらよいだろうか。昨年、足利商工会議所中国経済研究会の方々と中国の蘇州に行ったとき寒山寺というお寺で「多聞多思」という書を買ってきた。一昨年、栃木県日韓親善協会の一員として韓国の慶州に行った折に、仏国寺で「三思一言」という書を買ってきた。中国の寒山寺と韓国の仏国寺をつなげると「多聞多思」「三思一言」となる。いろいろな情報を入手し、人からの話をよく聴き、十分思考、熟慮し、頭のシンの痛くなるくらいまで考えた上で必要な決定をせよ、との教えになるのかも知れない。部下を持つ人は一対一で部下にあたる人とよく話し合う訓練をすることが大事だ。週 1 回 1 時間は、自分の部下と十分話し合うこと「先週どのような状況であったか」を聞いたあと「気になること」は何かを必ず聞き出し、その原因を推定しどうしたらよいか、とりあえずの対策と、ここ 1 ~ 2 年かけて取り組むべきテーマを探ること。物事をプロセスで考えるクセを部下である人に身に付けさせること。つまり、前回話し合ったテーマについてまず報告をしてもらい、今回気になること即ち問題の発見(観察) 原因の推定(分析) 対策の立案(判断)の手順で部下に職業上のカウンセリングを実施することが大事かと思う。(これを「エクソン方式のカンセリング」という。)

「自分の下に部下のいない人」には二つのタイプがあると思う。将来「部下のいる立場になりたい人」と「このままの状態の方がよい人」。このままの状態つまり部下を持つことを将来ともに望まない人は、「現場作業が完全にできる人」を目指すべきだ。この職業についてはこれ以上完全な作業はありえないというレベルにまで自分の職業上の知識や技能を高めること。どのような円高になっても、どんなに外国で安く同じような物やサービスの提供が行われるようになっても耐えられるだけの高付加価値の内容を示せることが求められる。そのためには、日本だけではなく世界中で示される自分の取り扱う物やサービスの最高水準を知り、それをはるかにしのぐものを自らの手で示さなければならない。オタクと言われようが狭く深くに徹し、コレクターとなることが大事だ。あそこにすばらしいものがあると聞いたなら、たとえ世界の果てまでも一週間以内に飛んでいくことも大事だ。

「将来部下を持ちたい人」は、他人から尊敬される状況を自らの手で作り上げなければならない。誰よりも早く入社し、誰よりも遅く退社することが最も手取り早く評価を得るコツである。製造

業よりもはるかに労働生産性の低いサービス業で上司と言われる立場になるコツは、長時間労働をいとわない以外にない。これに加えてサービス内容を改善するために創意工夫を毎日継続。どんどん内容をよくすればよい。サービスを提供されるお客様は、今までのお店や会社よりも今度のお店や会社の方がサービスがよければいいだけの話だから、近くの同業者よりもよいサービス内容は何かを考えどんどんこれを実施に移すだけで、業績は一気に上向き、すぐにでも部下を持つ立場の人になれる。「長い時間働くことをいとわないこと」と「近くのすぐれた同業者を追い抜くだけのサービスや商品を提供するための創意工夫を積み重ねること」の二つが、「将来部下を持ちたい人」の「職業人として自己学習能力を育てる」内容だ。

3 . おわりに

成功事例を毎日のように入手する工夫をまずし、次にそれを現在の業務にできるだけ簡単な形で取り入れるにはどうしたらよいかを考え、余りビクビクしないで勇気を出して実際にやってみる。(創意工夫をする人を最大限尊重する雰囲気を作ることは社長や地方公共団体の責任である。余計なことをしてと、出るクギを打つような発言を許しているのはすべてトップの責任。チャレンジを許さない体質を持つ組織は、未だかつてないような困難が目の前に迫っている日本では5年後存在しないと考えられる。)

ぜひ、「みにむ」の半年分を何回か読み返して頂き、自分の頭で物事を考え、自分の責任で物事を成し遂げるとしたらどうすればよいのかを考えて頂きたい。